

『飯能歴史探検』

青空の会 杉山

今回の目的地について飯能市在住の会員から飯能の魅力を聞いていたこと、渋沢栄一と飯能のパネル展が市立博物館で開催されていたことなどから探検することになった。

5月11日(火) 9:00 飯能駅に6名が集まった。銀座通りから大通りに出ると、蔵造りの中清商店やカフェの銀河堂、西川材を随所に使用して昨年リニューアルした商工会議所、通りの反対側にはおしゃれなトイレのある小町公園、そして店蔵絹甚などがあり、この通りの近くにあと2～3の蔵が並ぶと観光スポットになりそうだった。

まず初めに訪れた所は観音寺である。第2次世界大戦中に鐘が供出され、お堂のみが残った。飯能銀座のせんべい店主が張り子の白い象を製作し、そのお堂に収められたとのこと。また、アニメ ヤマノススメにはこの白い象が登場することから、キャラクターを描いた絵馬の販売と設置スペースがあった。

次に向かったところは「鉄腕アトム」像である。飯能青年会議所の副理事長は手塚治虫が社長をしていた虫プロ出版部に在籍し、退職後も交流があり、企画が実現しました。当地の鉄腕アトム像は世界で唯一の銅像である。

その次は飯能市立博物館である。NHK 大河ドラマ「青天を衝け」の主人公は渋沢栄一で、彼と飯能に関するパネル展が開催中だった。栄一、喜作、惇忠、平九郎など家系図で関係がよくわかり、栄一はわかっているだけで飯能を5回(13歳頃、18歳、24歳、60歳、72歳)訪れているとのことだった。

4か所目は能仁寺だ。ここには桃山時代の庭園やスポーツ寺と呼ばれるようになった萩野映明住職でも有名ですが、飯能戦争の主舞台になったところで栄一の縁者である喜作や惇忠、平九郎が中心となって結成した振武軍などが新政府軍と戦い、飯能は埼玉県内唯一の戊辰戦争の戦場となったところです。これらの説明が境内にある石碑に刻まれ、それを読みながら6名で当時の状況を空想し、大河ドラマと照らし合わせていました。

次に昨年オープンした「OH!!!」飯能へ。発酵をテーマにお土産の八幡屋、カフェのピーネ、レストランのFemy、体験できるパリシャキ研究所がある。お土産を覗いてあれこれ購入する人、ただ見ているだけの人などそれぞれ。

昼食はみな持参してきたのでニコニコ池周囲のベンチで食べ、食後にピーネへ入ろうとしましたが、中は独特な匂いがするという人がいて、来る途中に見つけた蔵造りのカフェ銀河堂へ行くことになった。店前に来て火曜日は休みとわかり、ついにはガストで、食後のデザートや反省会で本日の会は終了しました。

